

## 取り扱い説明書

仏壇仏具を永くお使いいただくためには、ほこりがかぶっていたり、お花が枯れていることのないよう、日ごろからお手入れを欠かさないようにし、取扱いにも注意しましょう。

### [仏壇のご使用の注意]

- 仏壇に直接水をこぼすと、本体や塗装面などに変化を起こすことがあります。水をこぼした場合には、乾いた布などですばやく水をふき取ります。また花立の水を取り替える時に、底に水滴が残っていないか確認します。
- 仏壇の膳引き・引き出し、経机に手を掛けて立ち上がると、仏壇や経机が壊れたり倒れることがあります。
- 長年ご使用になると、仏壇の扉の蝶番のネジがゆるんでくる場合があります。ゆるんだまま使用すると、仏壇を傷つけることがありますので、しっかり締め直します。

### [仏壇の安置場所の注意]

- 仏壇は木工品ですので、過度の湿気や熱により、本体や塗装面などに変化を起こすことがあります。また日射により変色や退色を起こすことがありますので、冷暖房器具の風が直接当たる場所、直射日光が当たる場所には安置しないようにします。
- 湿気によりカビが生えることもありますので、仏壇の裏側や側面には空間を取り、壁に密着しないように置きます。
- 仏壇を安置する場所が水平であるかどうか確認します。水平でない場合、仏壇の扉が開いてきたり、内部の仏具が転倒することがあります。
- 安置面、床面の強度を確認します。強度が不十分な場合、仏壇が傾いてくる場合があります。

### [仏具のご使用の注意]

- 主な仏具には、お花を入れる花立、線香をたく香炉、ローソクを立てる火立がありますが、仏壇や経机の大きさにあったものを使用します。
- 線香やローソクに火をつけるときは、香炉や火立を膳引きや経机の上に出して使用します。仏壇の内部で火を使うと危険です。
- 線香やローソクに火をつけたまま離れないようにします。また線香やローソクの近くに燃えやすいものを置かないようにします。
- 線香やローソクの火に冷暖房器具の強い風が、直接当たらないようにします。線香が倒れたり、ローが垂れてきて危険です。
- ローソクは、仏壇の大きさと火立の芯のサイズに合ったものを使用します。
- マッチのカスを入れるマッチ消、線香を入れておく線香差には、水を入れないで下さい。水が漏れて仏壇を傷めることがあります。
- おりんは、硬い床に落とすと割れて音が鳴らなくなることがあります。またリン棒でたたく場所はおり

ソの横ではなく、口のふちを下からたたき上げると一番良い音が出ます。

•位牌などの金箔や金粉を使用した部分には、直接手をふれないで下さい。金箔や金粉がはがれることがあります。

•仏壇内の照明器具は、おまいりする時だけ点灯し普段は消しておきます。また電球を替える時は、照明器具にあった電球をお使い下さい。照明器具の配線を変更する場合は、感電やショートしないようお買い上げ店までお問合わせ下さい。

### [仏壇仏具のお掃除の注意]

#### 1.仏壇

仏壇のお掃除は、毛バタキでほこりを払ったり、柔らかい布や仏壇クロスで、ほこりや汚れを拭き取ります。

汚れが落ちにくい場合は、ぬるま湯などにひたした柔らかい布を硬く絞り、拭き掃除します。また湿気は大敵ですので、水気を残さないようにしっかりと乾拭きをします。

市販の化学雑巾は、艶にムラが出てしまうので、あまりお薦めできません。

仏壇の隅や内障子のほこり、彫刻の隙間のほこりは、毛バタキやハケで払い落します。

金箔の部分は、直接手で触れたり、布で拭かないようにし、毛バタキでそっとほこりを払います。そのとき毛バタキの芯の部分で金箔を傷つけたりしないよう注意して下さい。

#### 2.仏具

仏具をお掃除で取り出す際は、落して仏壇に傷をつける事のないよう注意します。

塗り仏具の汚れは、柔らかい布で拭き取ります。

色の付いた金物仏具の汚れは、柔らかい布で拭き取ります。硬い布やみがき剤でこすると色が取れてしまいますので注意して下さい。

磨きの金物仏具の汚れは、みがき剤や洗浄液を使いよく磨きます。

火立にローソクのローがたまった時は、ロー除去液を使って取ります。釘等で取ると傷がつきますので注意して下さい。

#### 3.香炉の灰

香炉の灰がお線香の燃えかす等で汚れている場合は、灰ふるいを使って灰のお手入れをします。ふわふわした灰に生まれ変わり、お線香が最後まで燃え、かすが残ることがなくなります。

灰の表面は、灰ならしできれいに整えます。

#### 4.位牌・ご本尊

位牌やご本尊の金箔や金粉の部分は、直接手で触れたり、布で拭かないようにし、毛バタキでそっとほこりを払います。

### [仏壇仏具のお掃除の時期]

仏壇は、日ごろからほこりを取り除くよう気をつけていても、念入りなお掃除となると後回しになりがちです。

お彼岸やお盆の前、年末など、年に何回か念入りなお掃除をする日を決めておくとよいでしょう。

### [仏壇の修理]

仏壇は日常のお手入れが大切ですが、どんなに大切に使っても、永い間使い続けるとどうしても傷んできます。

何年もたつと仏壇の内部が、ローソクやお線香の油煙で黒ずんだり、金箔や漆塗りの部分がはがれたりします。扉がガタガタになったり、障子がボロボロに破れている仏壇もよく見かけます。

直さなくてはと思いながらも、ついつい後回しになっているのが仏壇です。

仏壇の修理は、直せなくなってからでは手遅れで、修理がきくうちに直す事が大切なポイントです。まず修理できるかどうか、信頼できる仏壇専門店に見てもらった方がよいでしょう。

この仏壇の修理を「お洗濯」とも言います。

仏壇の修理は、まず仏壇を解体し、汚れを洗淨、壊れた部分やキズを補修、漆を塗り直したり、金箔を押し直すなどして、新品同様に生まれ変わります。

ただし料金は、新品の仏壇の5割程度かかる場合もありますので、修理を依頼する場合は、必ず事前に見積もりを出してもらいましょう。